



名寄市立大学の窓から

知への誘い

vol.78

「労働搾取型人身取引と私たちの生活」

保健福祉学部 社会福祉学科 講師 宮崎理



私は研究テーマの一つとして、「国家の枠組みを越えて解決が迫られているソーシャルワークの課題」に関心をもち取り組んでいます。ソーシャルワークや社会福祉というと、障害がある人々への支援や高齢者の介護、社会福祉協議会の取り組みなど、日常生活に直接関係するものかと思いがちだと思います。しかし、国際的には、国家の枠組みを越えて解決が迫られているさまざまな問題が、ソーシャルワークの課題として取り上げられています。例えば、移民・難民の発生とそれらの人々の権利擁護は、送り出し国と受け入れ国双方に関わる問題です。また、昨年アイルランドで開かれたソーシャルワークの国際会議では、地球温暖化による気候変動や、イスラエルとパレスチナの問題なども

取り上げられました。「人身取引」もそのような課題の一つです。

人身取引というと、日本で暮らす私たちの生活には無関係のように思われるかもしれませんが。また、イメージするのは、女性に対する性的搾取や発展途上国での児童労働の問題といったところでしょうか。しかし、その他にも近年では男性も含む人々が、無報酬労働や著しく劣悪な条件での労働を強制的に従事させられるケースが世界的に増えています。これを「労働搾取型人身取引」といいます。

一昨年、私は中央アジアのウズベキスタン共和国で、労働搾取型人身取引の被害者とそれらの人々を支援するソーシャルワーカーを直接見てきました。この国では、満足に収入を得られる仕事は少なく、他国に出稼

ぎに行くことが当たり前になっていきます。そのようななかで、人身取引の被害が発生しています。信頼できる人から条件の良い仕事を持ちかけられ、実際に行ってみると満足な賃金や食事が与えられず働かされ、逃げ出そうとすると暴力を振るわれたり、パスポートを奪われたりするのが典型的な例です。現地のソーシャルワーカーたちは、国際協力組織や国際機関とのつながりを作りながら、被害者の救出と支援、被害予防のための啓発活動に取り組んでいます。さて、こうした話は日本に住む私たちには無関係なものでしょうか。みなさんがいま着ている服はどこで作られたのですか？今朝飲



んだコーヒーはどこから来たものでしょうか？おやつに食べたチョコレートは誰が作ったのですか？私たちの身の回りには、さまざまな国からもたらされた物があふれています。それらは誰かの労働の成果です。多くの場合、私たちは生産者の顔を知りません。そのなかで人身取引による労働が関わっている可能性が大いにあります。また実は、日本が人身取引の受け入れ国の代表的な一国として、国際的に問題視されているのも事実なのです。労働搾取型人身取引は、私たちの生活に馴染みがないどころか、とても身近な問題なのです。そして、問題の解決のためには国際的な取り組みが不可欠です。日常生活の中で、すぐにできることはあまりないかもしれませんが、私たちの生活が名も知らぬ誰かに支えられていることに思いを馳せて関心を払うことで、国家の枠組みを越えて人々の権利が守られる社会づくりの契機が生まれるのではないのでしょうか。

大学図書館へようこそ！

大学では、1年生の「基礎演習」という授業の中で図書館の利用について学びます。レポートを書いたり、授業で取り上げられたことを更に深めるためには、図書館の利用が欠かせません。有効に、楽しんで図書館を活用してもらいたいと願っています。

★大学図書館は市民の皆さまもご利用いただけます。

6月はすべて通常開館いたします。

【開館日】月曜日～土曜日(日曜日と国民の休日は休館)

【開館時間】9:00～21:00

◆問い合わせ

名寄市立大学図書館 ☎01654⑧7671(直通)



大学図書館にはこんな本があります

～「知」への誘い～からもう1歩～

国際的な労働問題・人権問題に関する図書を紹介いたします。

『信じられない「原価」買い物で世界を変えるための本』

①ケイタイ・パソコン ②おもちゃ ③食べもの

こどもくらぶ/編 講談社

→毎日手にする身近な物は世界のどこで誰が作っているのか、流通と労働の理解に役立つ3冊シリーズ。

『外国人労働者受け入れを問う』

宮島 喬、鈴木 江里子/著 岩波書店

→拡大されつつある外国人労働者について、その現状とあり方をわかりやすくまとめています。

『ルポ 戦場出稼ぎ労働者』

安田 純平/著 集英社

→世界の紛争地域での出稼ぎ労働者の実態を描く体験記です。

